

予防接種説明書

風しん抗体検査を受け、結果が陰性の場合、MR予防接種の対象となります。予防接種を受ける前には、必ずお読みください。

MR（麻しん風しん混合）

<疾患の概要>

麻しん：麻しんウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。発熱・咳・鼻汁・めやに・発疹を主症状とします。最初3～4日間は38.5℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39～40℃の高熱と発疹が出てきます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらくは色素沈着が残ります。主な合併症として、気管支炎肺炎・中耳炎・脳炎があります。患者100人中中耳炎は7～9人、肺炎は1～6人に合併します。脳炎は約1000人に2人の割合で発生します。また亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約4万8000人に1人の割合で発生します。また死亡例も麻しんにかかった人の数千人に1人の割合で存在します。わが国では現在でも年間約数十人の子どもが麻しんで命を落としています。

風しん：風しんは風しんウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。潜伏期間は2～3週間です。軽い風邪症状で始まり発疹・発熱・後頸部リンパ節の腫れなどが主症状です。眼球結膜の充血もみられます。合併症として関節痛・血小板減少性紫斑病（患者3000人に1人）・脳炎（患者6000人に1人）などが報告されています。発疹・熱が約3日で治るので「三日はしか」ともいわれますが、年長児や大人になってからかかると一般に重症化します。また妊娠早期に風しんにかかると胎児が先天性風しん症候群（心臓奇形・白内障・難聴まど）になる可能性が高くなるといわれています。

*副反応としては麻しんワクチンの成分からは、接種後5～14日（主として7～10日）目頃の間、1～4日間、だるさ・食欲不振・不機嫌・発疹等がでることがあります。

*このワクチンは弱毒生ワクチンなので接種して1週間目から発熱や発疹など軽い麻しんに似た症状が約20%の人にでます。

通常1～2日で消失します。体温の変化は接種後5～14日頃に起こりますので、接種後は熱の変化に注意して、上記症状が持続する場合は医師の診察を受けてください。

*高熱やけいれん等の症状が現われた場合は速やかに医師の診察を受けてください。

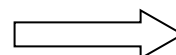
*接種前3か月以内に輸血またはガンマグロブリン製剤の投与を受けた人は3か月以上経過してから接種しましょう。

*接種前6か月以内にガンマグロブリン製剤の大量投与（200mg/kg以上）の投与を受けた人は6か月以上経過してから接種しましょう。

*風しんワクチンの成分からは弱毒生ワクチンなので軽い発熱・発疹・リンパ節の腫れなどがでることがあります（100人中4人程度）。

*接種後1～2週間は接種者の咽頭からワクチンウイルスの排泄が認められることがありますが周囲の人にはうつらないといわれています。

裏面もご覧ください。



<予防接種を受ける前に>

(1) 一般的注意事項

予診票は必ず保護者の方が記入してください。予防接種は健康な人が元気に時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものですから、体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の皆さんはお子さんの体質、体調などの健康状態によく気を配ってください。そして何か気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの先生や市役所の健康増進課にご相談ください。以下の注意を守って、安全に予防接種を受けられるよう、保護者の皆さんも御協力ください。

- 1 受ける予定の予防接種について、通知文や予防接種説明書をよく読んで、予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- 2 受ける前日は入浴（又はシャワー）をさせ、体を清潔にしましょう。
- 3 当日は朝から子供の状態をよく観察し、ふだんと変わったところがないことを確認してください。
- 4 予診票は子供を診て接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。

(2) 予防接種を受けることができない人

- 1 明らかに発熱のある人：一般的に熱のある人は、接種会場で測定した体温が37.5℃をこえる場合をさします。
- 2 重い急性の病気にかかっていることが明らかな人：急性の病気薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化もわかりませんので、その日は見合わせるのが原則です。
- 3 その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
*「アナフィラキシー」というのは通常、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような激しい全身反応のことです。そのような症状が出ないか、接種後30分は念のため、接種会場で様子をみましょう。
- 4 その他、医師が不適当な状態と判断した場合
 - (1) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などのウイルス性の病気にかかり、治癒後4週間以上経過していない人（潜伏期間中と思われる人も接種を見合わせる）
 - (2) 生ワクチン〔MR（麻しん風しん混合）・おたふくかぜ・水痘・BCG〕の予防接種後4週間以上経過していない人
 - (3) 不活化ワクチン〔四種混合・二種混合・日本脳炎・ヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎・子宮頸がん・ポリオ〕の予防接種後1週間以上経過していない人

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

これに該当すると思われる人は、主治医がある場合には必ず前もって相談し、その医師のところで接種してもらうか、あるいは診断書又は意見書をもらってから接種に行きましょう。

- 1 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人
- 2 発育が悪くお医者さんや保健師の指導を継続して受けている人
- 3 未熟児で生まれて発育の悪い人
- 4 カゼなどのひきはじめと思われる人（こういう時は体の状態がはっきりするまでなるべくやめておきましょう。）
- 5 以前予防接種をうけたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられた人
- 6 薬の投与を受けて皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたしたことがある人
- 7 今までにけいれんを起こしたことがある人。けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起きているか、受けるワクチンの種類は何かなどで条件が異なります。必ずかかりつけの医師と事前によく相談しましょう。
- 8 過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人
- 9 ワクチンによっては抗原のほか培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っている場合がありますのでこれらにアレルギーがあるといわれたことがある人
- 10 家族の中で、または遊び友達、クラスメートの間に、麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人

(4) 予防接種を受けた後の注意

- 1 予防接種を受けたあと30分間は、接種会場で様子観察するか先生とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- 2 接種後2～3週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 3 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめましょう。ただし、接種後2～3時間は入浴させないこと。
- 4 接種当日はいつも通りの生活をしましょう。はげしい運動はさけましょう。
- 5 生ワクチン（MR、BCG、麻しん、風しん、水痘）接種後は4週間以上、不活化ワクチン（四種混合・二種混合・ポリオ・日本脳炎・ヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎・子宮頸がん予防ワクチン）接種後は1週間以上経過してから次の予防接種を受けるようにしましょう。

(5) 副反応が起こった場合

予防接種のあと、まれに副反応がおこることがあります。また、予防接種と同時にほかの感染症がたまたま重なって発症することもありますので、十分観察してください。注射部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなど異常が見られたら、速やかに医師に相談してください。また市役所の健康増進課（電話45-5111内線2162）まで連絡してください。

(6) 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する（障害が治癒する期間）まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものなのか、別の要因によるものかの因果関係を、各分野の専門家からなる審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けとることができます。